

# 安寧



兵庫縣姫路護國神社報  
 「安寧」第十七号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒六七〇〇三 姫路市本町一八  
 電話 〇七九一三四一〇八九六  
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なとこ

マニラ マバラカット飛行場跡地に立つ特攻隊の碑(記事7P参照)

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 英霊の言乃葉

### 泣かずにほめて

陸軍伍長 島田美好 命

昭和二十年七月二十日  
 フィリピン・ルソン島にて戦死  
 新潟県出身 二十六歳

お母さん 永々のお世話感謝します  
 私もいよいよ国家のため お役に立つ時が参りました

私は赤紙を受けし日より すでに吾が身は大君に  
 捧げて仙台部隊に入隊した私です

男と生れこんなうれしい日はありません

一旦召されたからには生きて帰る事なく第一線に  
 出陣し死を覚悟して行きます

万が一戦陣で散った時 父母をはじめ兄妹なかよく  
 幸福に暮らすことを草葉の陰より見守ります

私 建築士の職務上 兄上の部屋を改築し喜んで  
 戴いた事 なによりの置土産だと思ひます

父母 兄弟に告ぐ 白木の箱が届いたら泣かずに  
 ほめて下さい

父母さまへ

島田美好



平成二十八年年度  
**秋季慰霊大祭**  
 十一月二日齋行

恒例の秋季大祭が、秋晴れの中厳肅に齋行された。当日早朝からは姫路郷友会の受付奉仕の方々がてきぱきと準備を進められ、姫路淡交会の献茶奉仕の方々は、お濃茶、お薄そして御菓子を用意を入念に準備。祭典開始一時間前、神



職を中心に習礼(しゅらい)というリハーサルが行われた。

祭典開始十時三十分大祭委員長、崇敬奉賛会長をはじめ宮司以下神職が玄関前に列立、号鼓の音と共に本殿へ参進、清祓のあと、海川山野の神饌が供えられ、献茶と続き、宮司の祝詞、総代会長、県遺族会長、崇敬奉賛会長の祭文の奏上が続ぎ、姫路市民合唱団により「もみじ」「三六五日の紙飛行機」の歌が奉納された。代表約百人が玉串拝礼、参列者六百名と共に、平和に感謝、祖国の安泰を祈り、厳肅な祭儀が約一時間半行われた。

年二回の例大祭であるが、参列者の顔ぶれは戦争体験者から戦後生まれの方々へと比重が変わりつつある。

**晴天が続いた初詣**

平成二十九年、宮司の打ち鳴らす太鼓の音とともに新年を迎えた。拝殿お扉が開けられ時刻を待っていた境内の人々が一斉に参拝、鈴の音が鳴り響いて護國神社のお正月が始まった。境内には崇敬者奉納の二千燈に及ぶお提灯に灯りがともり、明るく参拝者を照らし出す。新年最初のお祭り、歳旦祭が執行された。

夜があけると、ポーンスカウトの参拝、尺八の奉納演奏、詩吟の奉納、家内安全や厄除祈願をする方々が続いた。

二日には姫路剣道連盟による初稽古安泰祈願祭、四日から六日にかけては、企業、団体による事始めの祈願祭などお参りの人々で溢れた。十日ごろまで晴天が続ぎ、参拝者数が昨年より大幅に増加した。





# 崇敬奉賛会 新年祈願祭



一月九日午前  
十時三宅会  
長以下六十五  
名が拝殿に上  
り、宮司齋主  
のもと国家の  
平和と会員の  
安泰そして崇  
敬奉賛会の発  
展を祈り、会  
長に合わせて  
玉串拝礼、巫  
女による「み

たまなごめの舞」、  
森川浩恵氏による  
お琴の演奏を奉納。  
無事に神事が終了、  
場所を会館に移し、  
直会。



# 建国祭晴れやかに

建国二千六百七十七年目の二月十一日、前夜の荒天がうそのように晴れ渡った。

午前九時から会館にて日本会議兵庫会長三木英一氏の「神武天皇の御即位について」続いて自衛隊兵庫地方協力本部相生地域事務所長中村清勝氏の体験談「東ティモールPKOに参加して」、さらに関西学院大学一年生中野誇亮氏による「現代の若者として建国記念の日を思う」と題しての三名の講師による講演会が続いた。

なかでも中野氏の講演にはたくさんの方々が飛び若者を育てようとの空気が会場に広がった。十一時からは二百名余の参列のもと建国祭が本殿にて行われた。祭典終了に際し、泉宮司は「私たちは深い歴史のある祖国を持っています。日本最古の公的歴史書『古事記』の序文には「稽古照今」という言葉があります。古に学んで今の世の指針を見出すということです。日本中八万の神社は祖国を誇りに思い、各時代のご先祖に感謝の祈りをささげるお庭であります。

どうかこの建国の日、今日一日を有意義にお送りいただきたいと思えます。」と挨拶した。境内に場所を移しその後、建国記念の日を祝う会の式典が始まった。神事からは国会、県会、市の議員をはじめ姫路郷友会、隊友会姫路支部、霊友会の方々を中心に一般の方々も含め、お国の誕生日をお祝いしようとする方々であふれた。

## 第六回 戦士の証言

## 若い方に伝えておきたいこと言

元海軍中尉 加藤 昇 氏

平成二十八年十一月三日、第六回「戦士の証言」講演会を開催。「若い方に伝えておきたいこと」と題し、元海軍中尉の加藤昇氏が講師をつとめた。加藤氏は大正十一年京都市生まれ。冒頭、「まだまだ若い九十四歳です」と会場をわかせ、講演が始まった。

昭和十八年九月、加藤氏は立命館大学法学部を繰り上げ卒業し、海軍に志願。第十三期海軍飛行予備学生として、三重海軍航空隊へ入隊。十三期は旧制大学・高校・専門学校の卒業生で、全国から五千人もの大量採用がおこなわれ、また特攻要員でもあった。理工系は土浦（茨城県）に、加藤氏ら文系は三重に進んだ。土浦では即実践でハンモックに寝かされたというが、三重では紳士的な教育でベッドに寝かされたという。

三重での基礎教程修了後、昭和十九年一月、青島海軍航空隊に入隊し、偵察課程に進んだ。モールズで一分間にトットと六十字から九十字を打つのが得意だったという。昭和十九年五月、加藤氏らはずか八カ月で少尉に任官

され、実戦部隊に送られた。

昭和十九年七月、連合艦隊へ配属。偵察からはわずかに七十名が選抜され、重巡洋艦『最上』の艦載機である零式水上偵察機の搭乗員となった。当時、連合艦隊はリンガ泊地（インドネシア）に集結していた。赴任後すぐ、艦長に挨拶に行つたところ、航空母艦が一隻もない光景に、加藤氏は「これで戦争できますか」と尋ねたところ、「お前に言われんでも分かつとる」と叱られたという。その後、毎日訓練が続いた。『最上』に乗っていると、「ちつとも怖くなかった」と語った。千二百人も乗組員がいたが、十九歳から二十六歳の若者ばかりで、「まるで修学旅行のようにワイワイ騒いで、本当に戦闘に行くのかわからないほど」であったそうだ。

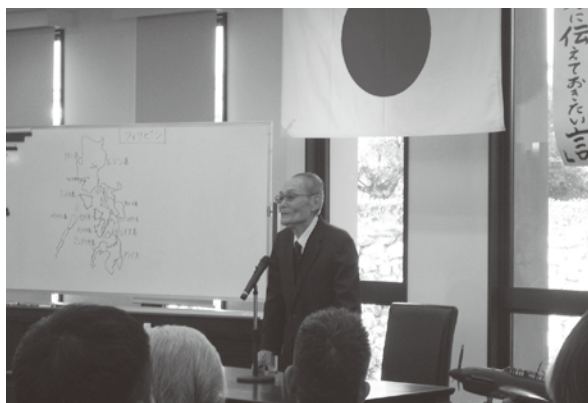
十月十八日、日本側は「捷一号作戦」を発動。加藤氏は史上最大の海戦で、日本の命運を分けたレイテ沖海戦に参加することになった。加藤氏の艦隊は『最上』を含む戦艦『山城』『扶桑』など七隻でフィリピンのレイテ湾に向け

て出撃。

ところが、連合国側は圧倒的な戦力で待ち構えていた。『最上』も被弾し、「首や胴体、手のないやつが転げ回っていて、さらに海水を浴び、甲板は血の海だった」と惨状を語った。十月二十五日、『扶桑』『山城』は集中攻撃を受け沈没。ついに『最上』一隻だけが残つたものの、九百人以上が戦死した。

レイテ沖海戦後まもなく、加藤氏はフィリピン・ルソン島のキャビテにいた第六三四海軍航空隊に転隊。二人乗りの水上爆撃機『瑞雲』の機長となり、二五〇キロ爆弾を積み、対艦爆撃に毎日出撃していた。船とは違い、「弾が一発でも当たればこの世の終わり。飛行機に乗っているときは怖かった」と語った。基地に帰ってくるたびに仲間が戻らず、だんだん数が減つていった。そのとき司令から「お前、本当に爆弾を投下してやりたいのか」と言われたという。

昭和二十年四月、鹿屋海軍航空隊（鹿児島県）へ転隊。同期生が特攻出撃して行く中、人生これで終わりと思つていたが、司令から「特攻で死ぬのも国のため。特攻要員を養成するのも国のため」との命令で、静岡県の大井海軍航空隊へ。終戦までの四カ月間、十九、二十歳の予科練生を乗せて飛行訓練をおこなった。これほど苦しい訓練はな



講演中の加藤氏

く、殴る、蹴とばす教育であったという。「早く第一線に出してほしい、死んだ方がまし、と思わせないと特攻には行けない。殴る方も必死であった」と当時の心境をふりかえった。

実戦経験者として「戦争は避けなければならぬが、もし戦争になれば絶対に勝たねばならない」と語った。また、加藤氏ら大正生まれの男性は二百万人も戦死者を出したが、白人の植民地は戦後独立しており、先の大戦を「大東亜聖戦」と呼んでほしいとも。現代の若者には「ハングリーとサバイバルの精神を忘れないでほしい」と訴えた。

（文責 兵庫縣姫路護國神社

崇敬奉賛会理事 深田 真史



# 旧漢字・旧仮名遣いを学ぶ (その五)

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 三木英一

来年は明治維新一五〇年の年に当たります。

明治初期の思想革命の導火線となり、ベストセラーになった福澤諭吉著『學問のすすめ』の冒頭を初版本(明治五年二月)で読んでみたいと思います。

・原文は、句読点が全くありませんので、現代の文として句読点を付けました。

・古い字のひらがなには、傍線を入れ、現在の字を添えました。

・読み方の難かしい漢字には、傍線を入れ、ルビを付けました。

・旧漢字は、まとめて現在の字にしておきます。

學↓学	萬↓万	賤↓賤	靈↓靈
樂↓楽	趣↓趣	廣↓広	富↓富
坭↓泥	實↓実	輕↓軽	後↓役
醫↓医	賣↓売	與↓与	

## 『學問のすすめ』現代文訳

「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」ということばがある。さて、それはどういう意味かという、「神が人をつくるときには、どの人間もみな同等の資格が与えられ、生まれつき身分が高いとか低いとかの違いはなく、万物の靈長といわれる人間のからだとか心の働きにより、世の中にあるいろいろな物質を利用して、

それを衣食住の役に立て、自分の思うままにふるまって、しかも互いに他人に迷惑をかけないようにして、めいめい安らかに楽しくこの世を渡らせてやろうというのが、神のおほしめしである」ということである。

ところが、いまこの人間世界を広く見渡すと、賢い人間もあり愚かな人間もあり、貧乏な者もあれば金持もあり、身分の高い人もあり低い人もあり、そのありさまは天と地ほども違っているように見えるのほ、どういうわけであろうか。そのわけはハッキリしている。実語教(寺子屋などで使われた修身書、作者不明)に「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり」(人学無智無智為愚人)とあるように、賢人と愚人との違いは、学問をするかしないかである。

また世の中には、むずかしい仕事もあり、やさしい仕事もある。そのむずかしい仕事をする人を身分のおもい人と言ひ、やさしい仕事をする人を身分のかるい人と言ふ。すべて精神的に苦勞する仕事はむずかしく、ただ手足を使うだけの肉休労働はやさしい仕事である。だから、医者や学者や政府の役人とか、大きなあきないをする商人、大ぜいの使用人を使っている大百姓などは、身分がおもく貴い人と言つてよい。身分が高ければ自然にその家の財産もゆたかになって、下っぱの者から見ると手も届かぬようであるが、そのもとをただせば、ただその人に学問の力のあるかないかによって、その違いもできたに過ぎないのであつて、生まれつき神さまにきめられた運命というようなものではない。

ことわざに「天は富貴を人に与えずして、これをその人の働きに与うるものなり」といふ。そこで前にも言つたように、人には生まれつき貴賤貧富の違ひはないので、ただ学問に精を出して、ものの道理をよくわきまえる人間が、身分の高い人となり、金持ちとなり、一方、無学の者は貧乏人となり、身分の低い者となるのである。

## 解説

『學問のすすめ』が、明治五年二月に出版された丁度その頃、明治五年八月に学制が發布され、全国に小学校が開設されることになったが、これに必要な教科書もないところから、『學問のすすめ』は初学の教科書として、また学問教育をすすめる趣意書として、県庁や有志者が一般の人民にできるだけこれを読ませるように努力したので、一層この書の売れ行きを促進した。

この売れ行きを見て、福澤諭吉は、引き続き二編以下を刊行する考へになり、明治六年十一月に第二編を出版し、明治九年十一月の第十七編をもって終わった。

初版を出した意図は、「端書」にある通りである。現代文訳で掲載すると、左の通りである。

はしがき

このたび、われわれの郷里の中津に学校を開くことになったので、われわれの勤める学問とはどういうものかということ、郷里の昔からの友だちへ知らせたいと思つて、この一冊の本をつくつたところ、ある人がこれを読んで「この本をただ中津の人だけに見せるよりは、広く世間の人々にも知らせたならば、更に一層有益であろうと勧めたので、そこで慶應義塾の活字版でこれを印刷して、世間の志を同じくする人々にお目にかける次第である。

明治四年未十二月

福澤 諭吉  
小幡篤次郎 記す

なお、この書は福澤諭吉と小幡篤次郎との共著のような体裁になっているが、これはその時の思いつきで小幡の名を利用したに過ぎない。小幡は福澤と同じく中津藩士で、福澤は十三石二人扶持の下士であつたが、小幡は二百石の上士の家に生まれ、二十三歳で藩学進修館の教頭になったほどの秀才であつた。

そして元治元年、福澤に目をつけられて江戸の福澤塾に入門して以来、福澤と共に慶應義塾に生涯をささげた学者である。

福澤は中津市学校の初代の校長としてこの小幡を派遣したのであるが、郷党のために新しい学問の趣意を説いたこの書にもその名を連ねたことは、中津にはまだ旧藩時代の身分格式を重んずる気風が強く残つてゐたことを考へてのことであつて、このほかにも、福澤が郷里のことについて意見を述べるとき、小幡と連名の形式にしたことが、しばしば見受けられる。

(参考文献) 出典財団法人福澤旧邸保存会

中津市五八六番地(留守居町) 福澤記念館内  
福澤諭吉『學問のすすめ』初編の複製本 解説・現代文訳

# 學問のすゝめ

福澤 諭吉

小幡篤次郎

同著

一天八人の上は人を造らむ人の下は人を造らむといへり。さむば天より人を生ずるは、萬人ハ萬人皆同ト位トして、生もるが貴賤上下の差別なく、萬物の靈たふ身と心との働を以て天地の間はあるとろづの物を資り、以て衣食住の用を達し、自由自在、互人の妨をおさむて各安樂は此世を渡らし給ふの趣意あり。さきども今廣く此人間世界を見渡すは、かしき人あり、たろろなる人あり、貧しきもあり、富めふもあり、貴人もあり、下人もありて、其有様雲と坭との相違あるは似たるハ何ぞや。其次第甚と明まり。實語教は、人學むさむむ智なく、智なき者ハ愚人ありとあり。さむ賢人と愚人との別ハ學ぶと學むざると

は由て出来るものなり。又世の中はむつかしき仕事もあり、やすき仕事もあり、其むつろしき仕事をする者を身分重き人と名づち、やすき仕事をする者を身分軽き人といふ。都て心を用ひ心配する仕事ハむつろしきして、手足を用る力役ハやすし。故に醫者、學者、政府の役人、又ハ大なる商賣をする町人、夥多の奉公人を召使ふ大百姓おどハ、身分重くして貴き者といふべし。身分重くして貴きハ自か其家も富て、下々の者とり見む及ぶをうらざるやうおれども、其本を尋ねハ唯其人は學問の力あるとあきとよ由て其相違も出来たるのよて、天より定たる約束はあらむ。諺は云く、天ハ富貴を人は與へむてこを其人の働は與るものまりとされむ前も云へる通り、人ハ生をあぶらよして貴賤貧富の別あり。唯學問を勤て物事をよく知る者ハ貴人とあり、富人となり、無學なる者ハ貧人とあり、下人となるあり。



# 全國護國神社會 第八回 『大東亜戦争鎮魂の旅』参加報告

兵庫縣姫路護國神社 権禰宜 泉 慶太郎

去る二月五日〜八日迄、全國護國神社會開催の第八回『大東亜戦争鎮魂の旅』へ当社から私と泉千晶巫女が参加した。当会では次世代を担う若手神職の育成、神徳の宣揚、敬神崇祖、先賢の精神を継承すべく、昭和六十三年一月にタイ・ビルマ方面にて第一回の海外研修会を開催。平成五年にその名称を『大東亜戦争鎮魂の旅』と改めてからは三年に一度海外研修を行っている。

今回は当社に於いても終戦七十年の折にご講演を賜ったジャーナリストの井上和彦氏と共に大東亜戦争における激戦の地フィリピン共和国マニラ方面へと向かう。フィリピン共和国では約四十七万人の日本人がご戦没なされている。

初日、靖國神社にて講師の井上和彦氏、当会会長である福井縣護國神社宮司、宮川脩氏を始めとし参加者十五名が集い靖國の御霊に慰霊祭出向の旨をご奉告申し上げる。正式参拝の後、フィリピン出立に先駆けて井上先生よりご講義を頂く。昼食後、羽田空港へ向かいフィリピンへ出立。マニラ市内ホテルへ到着、一日目を終える。

二日目朝、ホテルを出発し、慰霊祭場であるマバラカトゥ東飛行場跡へと

向かった。大西瀧治郎海軍中將によって編成された「神風特別攻撃隊」は昭和十九年十月二十五日、この飛行場より飛び立った。



井上和彦講師玉串拝礼

祭場である「神風特別攻撃隊記念碑」は特攻隊の精神に感銘を受けたフィリピン人である画家ダニエル・H・ディソン氏の働きかけにより昭和四十九年に設置されたものである。慰霊祭では巫女により「みたまごめの舞」が奉奏された。

午後からは、バターン半島に向かい、第十六師団慰霊碑前にて黙祷を捧げ、



「みたまごめの舞」奉奏

「君が代」「海ゆかば」を斉唱する。

三日目朝、予定より祭典時間を早め齋行するという事で早朝にホテルを出発し、カリラヤ日本人戦没者慰霊園へ向かう。日本の夏程度の気温という暑い中祭典が行われ、フィリピンでご戦没なされたご英霊へ感謝の誠を捧げ、日本の安寧を願う。

昼食後、山下奉文陸軍大将終焉の地へ向かう。第十四方面軍司令官であった山下大将は終戦後、この地で戦犯として絞首刑、散華された。

## 山下大将辞世の句

待てしばし 勳のこしてゆきし友

あとをしいて 我もゆきなむ

次に本間雅晴陸軍中將の終焉の地へ

向かう。大東亜戦争開戦時、第十四軍司令官としてフィリピンの米軍を攻略し、当時米比軍司令官だったタグラス・マッカーサーに敗北を与えた本間中將は、昭和十七年には予備役に編入され終戦を自宅で迎えた。それにも拘わらず、「バターン死の行進」の責任者として容疑をかけられ、戦犯としてこの地で銃殺刑にて散華された。

井上先生のご講義では、アジア諸國に於いて大東亜戦争で日本がどれだけ称賛されているかをご本人が実際に現地に行ったときの映像を見ながら話された。フィリピンもその一団だ。昨年、ドユテルテ大統領は神風特別攻撃隊が飛び立った十月二十五日に来日された。祖国を思い公の為にご自身の命を捧げられた尊いご英霊の御霊に感謝し、誇りある日本人としてどのように生きてゆくかを考えさせられた旅だった。

最終日、市内観光の後、如何ほどにこの日本の土を再び踏みたかっただろうかと、ご英霊の御霊を思い、成田空港にて研修会を終える。



山下奉文大将終焉の地

## シリーズ 英霊の戦場(八)

## ギルバート諸島の

## タラワ・マキン防衛戦

ギルバート諸島とは(位置:地図1参照)

一七八八年来航した英国船長ギルバート氏に因み命名され、十六の珊瑚礁島群、一八九二年英国領となる。原住民はミクロネシア人。一九七九年キリバス共和国の一部として独立。首都タラワ。

## ギルバート諸島の戦略的価値(地図2参照)

日本軍は英米軍が豪州で戦力を集結して反撃するとの予想から、米豪分断作戦として昭和十七年五月ソロモン諸島(ガダルカナル島等)と共に攻略して、航空攻撃による敵戦力を減殺すべきタラワに飛行場の建設を開始した。

米軍は日本本土への反撃経路上にある同島の存在を脅威と認識し、威力偵察や空爆等を頻繁に実施して日本軍陣地の実態を解明していたが、使用戦力は欧州優先の為、ガ島占領後は戦力に余裕が出来るまで着々と攻略準備を実施。尚、米軍はガルバニック(電撃)作戦と呼称し、タラワ珊瑚礁内で飛行場のある島ベティオ島を主攻略目標とし、日本はタラワ防衛を作戦名とした。

## 日本軍の作戦構想と準備

ガ島防衛戦に失敗した日本軍は島嶼防衛戦略を変更しタラワにも昭和十八年二月海軍陸戦隊を基

幹とする特別根拠地隊を配置、司令官は友成少将。同年七月司令官は柴崎恵次少将(兵庫県出身)に交代、柴崎少将は島の地形から水際撃滅作戦しかないと判断して、島の全周に強固な地下又は半地下陣地を多数構築することを決意、しかも各陣地は相互支援が出来るように、又上陸前の砲撃で一部が潰されても補完できるように巧みに配置する等、司令官自ら汗を流して短期間に構築した。更に軍紀を厳守させ対上陸戦闘訓練を反復徹底して守備将兵に自信を付けさせ、その士気は旺盛であった。米軍の攻略企図には日本の海軍主力をギルバート諸島に誘引して英印軍のビルマ(現ミャンマー)上陸作戦を容易にする狙いも含まれていた。

## タラワ防衛戦(昭和十八年十一月)(地図3参照)

二十一日(米軍公刊戦史では米国日付を採用し二十日として記録)午前四時戦艦・巡洋艦等による上陸支援射撃が約二時間、その後空母機による銃撃と爆撃が実施されたが米軍側も錯誤の多い砲撃となり、然も日本軍の砲撃で米軍上陸輸送船団は損害が続出、上陸部隊はガ島で精強性を培った海兵第二師団であったが、日本軍の海岸障害物の除去に手間取り上陸は予定より二時間も遅れるの上、多数の上陸用装軌艇が珊瑚礁に乗り上げ、結果多くの兵士は海上を徒歩で上陸する状況が多発し、日本軍は速射砲で多数の装軌艇を撃破、全ての火器を使用して上陸部隊將兵に大損害を与えた。

米軍は「精強部隊の名譽を汚すな」を合言葉に損害を顧みず強行上陸を決行。第二波及び第三波の上陸部隊も日本軍の反撃で余りの損害の多さに

驚愕した米軍は野砲や戦車・火炎放射器の早期揚陸と激しい砲撃の続行を強いられた。日本軍の強靱な戦闘は柴田司令官の緻密な作戦構想と將兵の勇猛果敢な行動の結果であった。米軍は辛うじて橋頭堡(上陸部隊を収容できる地域)を確保するだけが精一杯で夜を迎えた。尚、この日午後柴崎司令官が戦死。

二十二日 米軍は夜間決死の戦車やブルドーザーの揚陸や補給と増援部隊の上陸を以て戦力の回復を図ったが、日本軍も反撃態勢を整えており、米軍の進撃は多大の犠牲を生じさせ戦場は大混乱となる。戦車も威力を発揮できず、ブルで日本軍陣地の埋没作戦により辛うじて上陸地域拡大に成功。日本軍も司令官を失った影響か、増援部隊が上陸後大混乱している海岸に迫撃砲射撃をしなかった事を米軍指揮官は神助であったと戦後述懐している。然し日本軍は司令官の教えを守り強靱な戦闘を継続した。

二十三日 この日も米軍は増援部隊を投入して戦車や火炎放射器等あらゆる火器を使用して日本軍陣地の各個撃破作戦を継続したが、巧みな相互支援射撃により損害が多発した為戦線の拡大は遅々として進まず。そこで米軍は日本軍に不眠不休作戦を強要させた。完全に孤立した日本軍陣地は弾薬が欠乏し自決する兵士や朝鮮人労働者の投降も出現。

二十四日 午前四時日本軍は約三〇〇名で反撃を開始、米軍はあらゆる火器で応戦する凄惨な白兵戦となる。米軍野砲は自軍前線の六〇米前まで制圧射撃を敢行、艦砲は日本軍部隊地域に弾幕射撃



を浴びせて逆襲を制圧した。日本軍は島の東部に追い詰められた狭い地域に艦砲が集中砲火を浴びせて制圧したが、生き残った日本兵は死ぬまで戦い続けたので終日危険な掃討戦を余儀なくさせた。

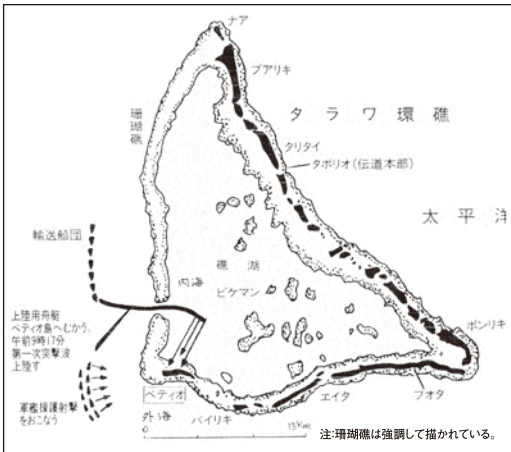
二十五日 最後まで抵抗をしていた拠点の制圧を終えたとした米軍は同島の占領終結を示す国旗を掲揚した。生き残った日本兵は執拗なゲリラ戦により多くの米軍将兵を殺傷して二十七日玉砕した。

**マキン防衛戦**

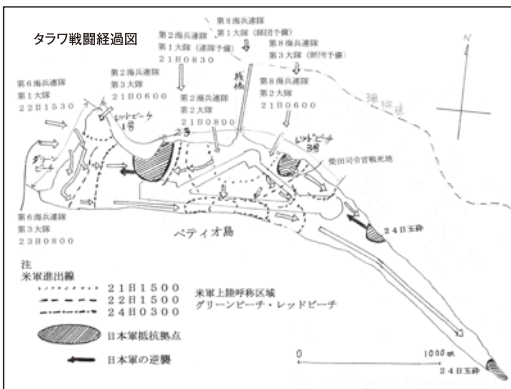
日本軍守備隊は七九八名であった。米軍は二十日激しい砲爆撃の後午前八時半、一個戦闘団七二〇〇名が海岸での反撃を受けないで上陸。然し内陸部に進出した際、守備隊は猛烈な逆襲を実施、米軍に多大の損害を与えたが衆寡敵せず、組織的抵抗が崩壊するまで甚大な損害を与えるも、二十四日全員玉砕した。



地図1：戦場となった太平洋の島々



地図2：ガルバニック作戦



地図3：タラワ戦闘経過図

尚、マキン戦中、潜水艦が米空母一隻を撃沈、米海軍将兵六四三名が戦死。

**日米戦死傷状況(捕虜)は日本軍**

タラワ	総兵力	戦死	戦傷病(捕虜)
日本軍	四六〇一	四四五五	一四六
米軍	一八六〇〇	一〇〇九	二二〇一
マキン	総兵力	戦死	戦傷病(捕虜)
日本軍	七九八	六九三	一〇五
米軍	七二〇〇	六六	二一八

※姫路護國神社に祀られている英霊 三九柱

**第三特別根拠地隊司令官 柴崎恵次中将の最後**

出身地 現：加東市東条町森

二十一日 正午を境に、彼我の戦死傷者は山積した。特に、各防空壕・塹壕等の中は、わが守備隊の死傷者で足の踏み場もなかった。そこで柴崎司令官は、司令部作戦地下壕を負傷者の治療所に提



柴崎恵次海軍中将。第三特根司令官としてタラワの海軍陸戦隊を指揮した。

遂げた。日頃から部下思いの司令官は負傷兵を大切に、自らは弾雨の中で陣頭指揮にあたり、ついに散華した司令官の恩情に対し、玉砕を覚悟した将兵の士気を更に鼓舞、指揮官を失っても逆襲や粘り強く戦う守備隊に因り、占領及び掃討作戦に入った米軍側に予期以上の戦死傷を出した。

出典 防衛庁戦史叢書(米国公刊戦史含む)

(文責 兵庫縣姫路護國神社 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎)

供し、自ら参謀・司令部員等連れ、外海側の防空壕に移る事を決意、その移動の途中一四時頃敵弾が命中し、壮烈な戦死を

# 日誌抄

二十八年九月  
二十九年三月

平成二十八年

- 九月 七日 境内入口フードな緑白美施
- 九月 八日 全国護國神社幹事大会護國神社出向
- 九月 九日 兵庫県神社関係者大会淡路出向
- 九月 十四日 近畿地区女子神職の会五十名正式参拝
- 九月 十七日 神宮大旗頒布祭
- 九月 十八日 神社庁長会
- 九月 二十六日 全国神社総代会秋田へ出向
- 九月 三十日 兵庫県神社庁大旗頒布祭出向
- 靖国神社坂権宮司・岡村権福正式参拝
- 日本遺族会第三ブロック参拝
- 大年神社秋祭出向
- 姫路聖の会開催
- 千種町慰霊堂五十名
- 依用二月分会慰霊祭
- 立正佼成会五十名平和の祈り参拝
- 松原市遺族会参拝七十名
- フイリン思い出の会正式参拝七十名
- 秋季大祭
- 戦士の証言講演会
- 姫路市遺族会総会参加
- 黒田庄町石原遺族会三十五名慰霊祭
- 新嘗祭執行
- 姫路地区神社関係者大会
- 多可町慰霊祭百二十名参拝
- 崇敬奉賛会運営委員会
- 建国祭打ち合わせ
- 市川除詠会清掃奉仕
- 献灯架設工事開始
- 城東老人会清掃奉仕
- 清掃奉仕七十名
- 試験点灯

平成二十九年

- 一月 一日 歳旦祭
- 一月 二日 姫路剣道連盟祈願祭
- 一月 四日 会社団体新年祈願祭
- 一月 五日 会社団体新年祈願祭
- 一月 六日 会社団体新年祈願祭
- 一月 七日 プライダルフェア
- 一月 九日 崇敬奉賛会祈願祭
- 一月 十日 自衛隊地方連絡部祈願祭
- 一月 十日 姫路遺族会参拝
- 一月 十四日 古礼焼納
- 一月 十五日 姫路大鷲クラブ正式参拝
- 一月 十八日 福岡町慰霊祭
- 一月 五日 ママニ慰霊祭出向
- 一月 十日 建国祭
- 一月 十一日 建国祭
- 一月 十三日 全国護國神社出向
- 一月 十四日 自衛隊入隊激励会出向
- 一月 十六日 崇敬奉賛会運営委員会
- 一月 十七日 三宅和行氏崇敬奉賛会会長祝賀会出向
- 一月 十八日 神社庁長会出向
- 一月 十五日 依用福山慰霊祭
- 一月 十七日 城東文化協会宮司講話
- 一月 二十日 賀堂流禊祭
- 一月 二十三日 神社総代会



## 崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた  
英霊を大事にしたいと思う人  
先祖を敬う心を持つている人  
見えないものを受け継いで  
いきたいと思う人  
奉賛会に入会して神社を  
支えて下さい  
我々と共に英霊に感謝し  
そして汗をかき、  
涙を流しましょう

奉賛会事務局  
〒670-0012  
兵庫県姫路市本町118  
電話 079-224-0896  
<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

## 美しき白鷺宮の結婚式

### 白鷺宮 参集殿

ご親族のみでのご会食から  
ご披露宴(～60名様)まで  
専任プランナーが当日まで  
サポートいたします



### 【婚礼受付相談室】

TEL. 079-224-0559

受付時間 10:00～19:00 (火曜定休)

E-mail. [info@shirasaginomiya.com](mailto:info@shirasaginomiya.com)

※詳しくは婚礼専用HPにて

<http://www.shirasaginomiya.com/>

無料相談会  
開催中  
\* 予約制 \*

